

1

今年度の結果と取り組みについて

(1) 全国学力・学習状況調査

○●国語●○

<p>国語A (領域ごと)</p> <p>①話すこと・聞くこと 良好な結果であった</p> <p>②書くこと やや課題が残る結果であった</p> <p>③読むこと やや課題が残る結果であった</p> <p>④言語事項 概ね良好な結果であった</p> <p>(問題形式)</p> <p>①選択式 概ね良好な結果であった</p> <p>②短答式 概ね良好な結果であった</p> <p>③記述式 (該当設問なし)</p> <p>(無解答率) 概ね良好な結果であった</p> <p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題が何を問うているのかを理解できていない状況がうかがえた。 ・読み落としが多いようだ。

<p>国語B (領域ごと)</p> <p>①話すこと・聞くこと 概ね良好な結果であった</p> <p>②書くこと 概ね良好な結果であった</p> <p>③読むこと 概ね良好な結果であった</p> <p>④言語事項 (該当設問なし)</p> <p>(問題形式)</p> <p>①選択式 概ね良好な結果であった</p> <p>②短答式 (該当設問なし)</p> <p>③記述式 やや課題が残る結果であった</p> <p>(無解答率) 概ね良好な結果であった</p> <p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料を読み取る力が不足している。 ・条件に従って書いたり、自分の言葉でまとめたりすることが苦手である。

分析

- ・ A問題の言語事項で、漢字の読み書きは正答率が全体として高かったが、ローマ字が定着していない。学習後にローマ字にふれる機会が少なかったことが原因と考えられ、パソコン使用時にローマ字で入力する機会を増やしたり、ローマ字を書いたりする活動などをもっと継続的に行う必要がある。
- ・ 教科書にある文章だけでなく、身近にあるチラシや本の紹介カードなどの題材から、内容を的確に読み取るというような機会をつくるとよいのではないかと。
- ・ B問題では、選択式の問題では正答率が全国を上回る設問が多かったが、記述式の問題に慣れていないようである。特に、提示された条件に合わせてあてはまる内容をまとめて書く問題で、正答率が低かったり無解答率が高かったりした。日頃から自分で考えて書くという活動を増やしていくことや、キーワードを提示して書かせる活動など、作文指導を丁寧に行うことが必要である。
- ・ 長文になると、その意味を理解しづらい児童が少なくない。普段から慣れておく必要がある。

○●算数・数学●○

算数・数学A

(領域ごと)

①数と計算

やや課題が残る結果であった

②量と測定

良好な結果であった

③図形

概ね良好な結果であった

④数量関係

概ね良好な結果であった

(問題形式)

①選択式

概ね良好な結果であった

②短答式

やや課題が残る結果であった

③記述式

(該当設問なし)

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・図形に関する問題は、全体的に得意である。
- ・数や計算の性質を理解できていないことがうかがえた。

算数・数学B

(領域ごと)

①数と計算

概ね良好な結果であった

②量と測定

概ね良好な結果であった

③図形

概ね良好な結果であった

④数量関係

概ね良好な結果であった

(問題形式)

①選択式

概ね良好な結果であった

②短答式

概ね良好な結果であった

③記述式

概ね良好な結果であった

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・記述式の問題が、比較的よくできていた。
- ・資料の活用など、問題の意味を把握することが難しかった。

分析

- ・小数の足し算で小数点をそろえずに足してしまう誤答が目立つなど、計算問題での正答率が低かった。現在の『毎日計算プリント』は筆算の形式だが、横式を筆算に直して解く問題や分数問題など、いろいろなパターンを混ぜるなどの工夫をしていく必要がある。また、計算の間違い直しを徹底するなど、計算のミスなくしていく取り組みを進めることが必要である。
- ・文章から問題をイメージし、図形化することが難しい。問題解決学習を継続していく中で、絵や図を活用する力や問題をイメージする力を育てていくことを意識したい。さらに、問題を解くだけでなく作成する活動も取り入れていきたい。
- ・長文の問題に慣れておらず、結果として時間内に終わらなかった児童が少なくなかった。長文の問題に慣れる機会を多くするとともに、できそうな問題から取り組むなどの方法もとらせたい。
- ・グラフや表などは、算数以外の教科(理科や社会など)でも意味を読み取る活動を意識して取り入れる。
- ・チャレンジプリントを継続的に行ったことで、割合を表す線分図などの理解は進んでいる。今後も児童の実態に応じて問題の改訂を行い、説明する問題や思考力を問う問題に慣れさせるとともに、教科書の巻末の問題などの応用問題にも取り組み、児童の思考力を向上させたい。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析

平成19年度からの9年間、国語A、国語B、算数A、算数Bのいずれも、上昇傾向が見られるが、年度ごとのばらつきがある。

無解答率は減少してきており、今年度は9年間で2番目に低い値であった。

学力高位層と学力低位層についての分析

9年間の比較で、学力低位層（正答率40%以下）は減少傾向である。学力高位層（正答率80%以上）は伸び悩んでいる。

○●取り組み●○

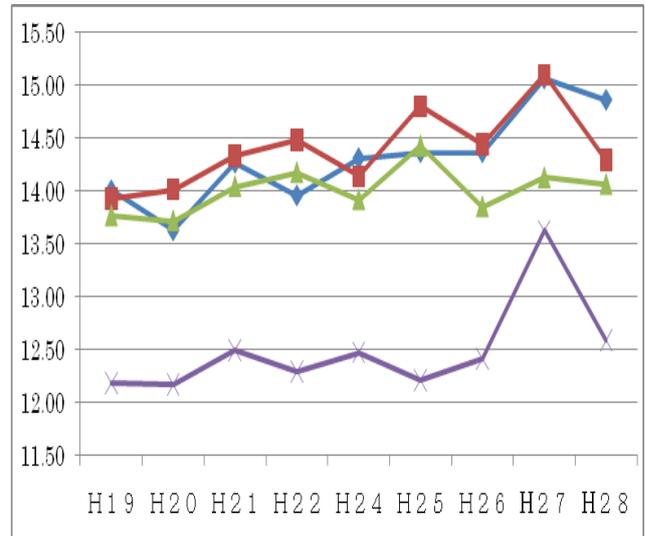
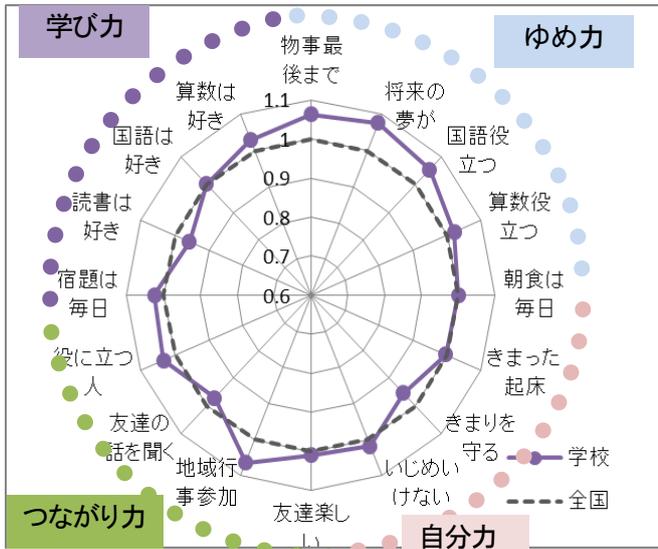
学力向上に関する取り組み

- ① 研究授業・研修会
 - ・教科学習、支援教育、人権学習など各学年1回程度の研究授業と研究発表の実施
- ② 授業づくり
 - ・授業改善の視点の明確化と学習ルールの確立→【白川小スタンダード わかる授業づくり編】の実施、定着
 - ・教材、教具の工夫→ICT機器の活用等
 - ・算数科の授業改善（問題解決学習）
 - ・多様な意見交流の場の設定、共同学習の推進
 - ・体育授業の充実（運動量の確保と、技能を高め、楽しくて達成感を感じられる授業：体力向上プロジェクトとの連携）
 - ・学年会の充実による授業研究の深化
 - ・分割授業、習熟度別授業の推進
 - ・個別指導と全体指導の両立
 - ・専門支援員、支援教育サポーターによる入り込みや個別支援の充実
- ③ 読書活動
 - ・朝の10分間読書の実施
 - ・読み聞かせボランティアによる読み聞かせの実施（1～6年）
 - ・調べ読書の推進
 - ・家庭読書の推進
- ④ 朝ピカタイムの実施
 - ・算数の学習事項の定着をはかるための、反復プリント学習（毎日計算プリント等）
- ⑤ 白川タイムの実施
 - ・国語、算数を中心とした補充・発展学習
- ⑥ 家庭学習
 - ・【白川小スタンダード】版学校だよりの発行、生活振り返りカードの実施による家庭への啓発
- ⑦【白川スタンダード】の実施による生活規律、学習規律の確立
- ⑧意欲を喚起する授業、「楽しい！わくわくする、よくわかる」授業実践の追及。
 - ・授業公開週間（オープンクラスウィークス）の設定（年2回）

○●子どもたちに育みたい力●○

今年度の結果

これまでの推移



分析

- ・年度ごとでバラつきがみられるが、全体的に概ね良好で向上傾向である。
- ・『ゆめ力』では、「将来の夢や目標を持っていますか」「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことはありますか」という項目でたいへん肯定的な回答をしており、最も向上傾向が顕著である。今後も子どもたちの意欲をかきたててがんばりを認め、学校生活の中で自らの良さが認められるという場面をつくりだしていきたい。
- ・『自分力』では、「学校のきまりを守っていますか」という項目に「当てはまる」と回答した児童は3割であった。日常生活でも、善悪を考えずにその場の雰囲気にならされてしまう場面がよくあり、内面に訴えかける指導を充実させたい。
- ・『つながり力』では、地域行事への参加の項目が今回もたいへん肯定的な回答であった。「友だちの話や意見を最後まで聞くことができますか」の肯定度がやや低く、まだまだ自己中心性の残る様子が見られる。
- ・『学び力』では、「読書は好きですか」の項目が、全国や大阪府と比較して低くなっている。その他の学習に関する意欲は高まってきており、読書量を増やす取り組みの充実を図りながら、引き続き学ぶ楽しさを味わうことのできる学習活動を工夫・実践していきたい。

取り組み

<ゆめ力>

- 「自分もやってみたい」というあこがれにつながる、本物との出会いの機会の設定
- 4年生での「二分の一成人式」で、成長を振り返り、自分の今後について考えさせる
- やり遂げた喜び、達成感を味わわせる取り組み
 - ・運動会演技・応援団、校内音楽会、マラソン週間・大会、総合学習発表 等

<自分力>

- 『白川小スタンダード』の策定と浸透
 - ・生活面や学習面の学校全体の課題を明確にして、教職員の共通理解の下で指導の徹底を図る。

<つながり力>

- 一人ひとりの子どもたちのつながりをつくる取り組み
 - ・教師が子ども一人ひとりのよさを知り、認め、学級全体に広める。
 - ・トラブルが起きたときこそチャンスと考え、新たなつながりにしていく。
- 多様な意見交流の場の設定

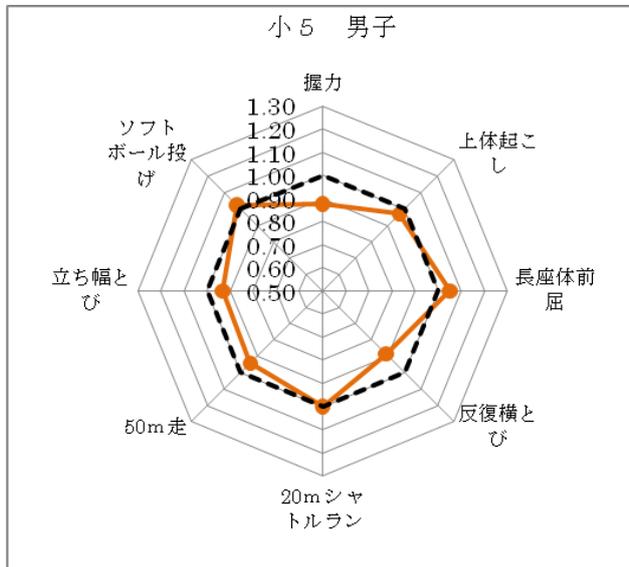
<学び力>

- 楽しく魅力ある授業づくりに向けた校内研修の充実
- 支援教育の視点を踏まえた授業改善
 - ・めりはりのある授業展開（簡潔な指示、声の大きさ、速さ、板書計画 等）
 - ・学習意欲の喚起と継続（具体的活動・操作の活用、課題提示の工夫 等）
 - ・教材・教具の工夫（ICTの活用 等）

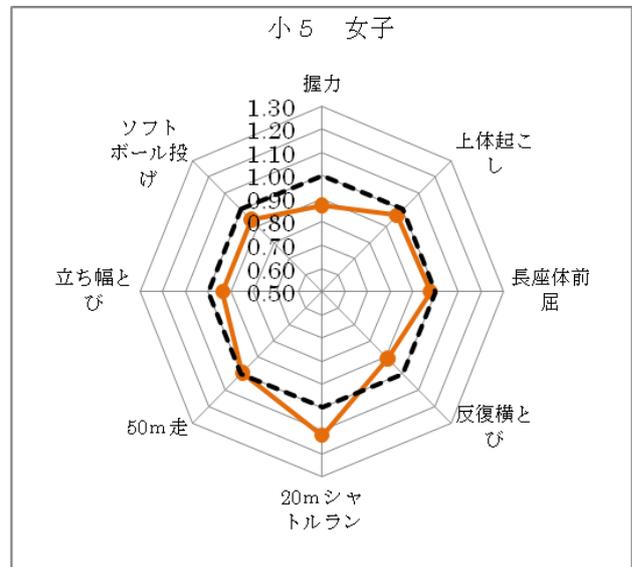
(2) 全国体力・運動能力、生活習慣調査

○●体力●○

男子 (小5)



女子 (小5)



分析

- ・全国平均と比べてみて概ね変わらないが、少し下回る部分が見られる。
- ・男子において、長座体前屈が良好である。昨年度と比べると、女子の記録が大きく下回っていることから、計測の方法に問題があったことも考えられる。
- ・男女共に反復横とびや握力が全国平均を下回っている。瞬発力に課題があると考えられる。反復横とびのリズム、体重移動、柔らかいボールを握るなどのトレーニングを教えていくことも大切だと感じる。
- ・ソフトボール投げでは男子の結果が良好だったにも関わらず、女子の結果が全国平均と比べて下回っている。休み時間に、男子は積極的にボール遊びをしているが、女子がボール遊びをしているのはあまり見かけない。もっと、ボールを投げる機会を増やす方策を検討していく必要がある。
- ・本校では、特に高学年の児童が朝の時間に運動場を走る姿をよく見かける。また、社会体育の陸上、野球、バスケットボール、サッカーなど、スポーツクラブに入っている児童が多く在籍する。運動やスポーツが好きですか？というアンケートの回答には、好き・やや好きと答えた割合が男子で88%、女子で86%ととても意欲的であるといえる。しかし、その一方で体力に自信がありますか？というアンケートの回答には自信がある・まあまああると答えた割合が男子で60%、女子で54%と低い。好きだという意欲を自信へとつなげる工夫が必要だと感じる。

取り組み

①授業づくり

- ・児童が主体的に運動に取り組む教材、場づくりの工夫
- ・振り返りカード、達成カードの工夫、活用（自らのめあててに向けた学習）
- ・体育館での授業の始めに、「茨木っ子運動」に取り組む（体育館専用プロジェクターの設置）
- ・各学年における年間カリキュラム、評価基準の作成

②体育的行事

- ・運動会、耐寒トレーニング・マラソン大会、連合水泳大会・連合運動会

③自ら体を動かす活動

- ・朝の時間を使った、6年生の陸上競技自主トレーニングの奨励
- ・ジャンピングボードの設置・増設（なわとびの奨励）
- ・マラソンカード、なわとびカード、てつぼうカードの配布
- ・放課後や土曜日の校庭開放

2

3年間の計画

	(各校)	(各校)	(ブロック共通)
	学力向上	体力向上	中学校ブロック連携
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学び合いをもとに基礎学力を高める。 ・コミュニケーション活動を通して、思考力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動する楽しさを味わい、自ら進んで運動に取り組む児童を育成する 	<ul style="list-style-type: none"> 課題を持つ仲間寄り添い、共に成長できる児童・生徒を育成する。
平成26年度	<ul style="list-style-type: none"> ①算数科の授業の工夫改善 <ul style="list-style-type: none"> ・問題解決学習に関する研究の推進、研究授業の実施 ・指導法の統一（繰り下がりの考えかた、あまりの書き方、約分の方法など） ・効果的なノート指導について交流・研究 ・少人数指導、習熟度別指導の工夫・充実 ・毎日計算プリントを全学年で実施 ・市教研算数部の診断テストを活用しての課題の把握。 ②コミュニケーション力の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション活動を取り入れた授業の工夫と研究 ・「聞き方」「話し方」「声のものさし」の掲示。 ③読書活動の活性化 <ul style="list-style-type: none"> ・図書館支援員、図書ボランティアと連携した取り組み ④家庭学習の定着 <ul style="list-style-type: none"> ・「白川小スタンダード」版学校だよりの発行、生活ふり返しカードの実施による家庭への啓発 	<ul style="list-style-type: none"> ①体育の準備運動として茨木っ子運動、茨木っ子運動Ⅱの活用。 ②マラソンカード、なわとびカードの配布。 ③体育委員が製作したなわとびDVDの活用。 ④なわとび用ジャンピングボードの活用。 ⑤全学年でスポーツテスト実施 ⑥6年生で100m泳ぎきることをめざした系統的な水泳指導 	<ul style="list-style-type: none"> ①小中連携担当者の教育内容部会を2ヶ月に1回開催。 ②連携コーディネーターによる小学校訪問・参観の実施。 ③学校事務の共同実施を月1回開催。 ④部活動での連携（中学の陸上部から小学校への練習指導） ⑤中学校ブロック合同授業研の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・集団づくり小中合同研修会（8/25） ・中学校の英語科研究授業を保幼小中で参観（1/28） ・小学校にて、中学校の授業のようすをビデオで参観。 ・各学校で実施する校内授業研・参観等にお互いに参加し、交流。
平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> ①算数科の授業の工夫改善 <ul style="list-style-type: none"> ・問題解決学習に関する研究の推進、研究授業の実施 ・指導法の統一（繰り下がりの考えかた、あまりの書き方、約分の方法など） ・効果的なノート指導について交流・研究 ・少人数指導、習熟度別指導の工夫・充実 ・毎日計算プリントを全学年で継続実施 ・市教研算数部の診断テストから見えてきた課題に焦点をあてた授業実践の交流・研究。 ②コミュニケーション力の育成 ③読書活動の活性化 <ul style="list-style-type: none"> ・図書館支援員、図書ボランティアと連携した取り組み ④家庭学習の定着 <ul style="list-style-type: none"> ・「白川小スタンダード」版学校だよりの発行、生活ふり返しカードの実施による家庭への啓発。懇談会等を活用し、家庭・学校との連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①体育の準備運動として茨木っ子運動、茨木っ子運動Ⅱの活用。 ②マラソンカード、なわとびカードの配布。 ③体育委員が製作したなわとびDVDの活用。 ④なわとび用ジャンピングボードの活用。 ⑤全学年でスポーツテスト実施 ⑥6年生で100m泳ぎきることをめざした系統的な水泳指導 	<ul style="list-style-type: none"> ①小中連携担当者の教育内容部会を継続して設置・開催し、本音で話せる関係づくりに努める。 ②連携コーディネーターによる小学校訪問・参観・授業の実施。 ③学校事務の共同実施。 ④連携カリキュラムの検討 <ul style="list-style-type: none"> ・「教室はまちがえるところだ」等の小から中への継続した道徳授業の実施。 ・東小・白川小スタンダード（算数）の共有。 ・茨木っ子運動Ⅰ・Ⅱを体育の授業で共有実施。 ・部活動での連携（中学の陸上部から小学校への練習指導） ⑤中学校ブロック合同授業研を中学校で2回開催 <ul style="list-style-type: none"> ・各学校で実施する校内授業研・参観等にお互いに参加し、交流する。

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">平成28年度</p>	<p>①□ 教科の授業の工夫改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題解決学習に関する研究の推進、研究授業の全学年実施 ・指導法の統一（問題解決の手立ての系統化 等） ・効果的なノート指導について交流・研究 ・少人数指導、習熟度別指導の工夫・充実 ・毎日計算プリントの内容改善及び全学年で継続実施 ・思考力を高めるチャレンジプリントの実施 ・市教研算数部の診断テストから見えてきた課題に焦点をあてた授業実践の交流・研究。 <p>②コミュニケーション力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「発表名人」「聞き方名人」の活用 <p>③読書活動の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館支援員、図書ボランティアと連携した取り組み <p>④家庭学習の定着</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「白川小スタンダード」版学校だよりの発行、生活ふり返しカードの実施による家庭への啓発。懇談会等を活用し、家庭・学校との連携を図る。 	<p>①体育の準備運動として茨木っ子運動、茨木っ子運動Ⅱの活用。</p> <p>②マラソンカード、なわとびカードの配布。</p> <p>③体育委員が製作したなわとびDVDの活用。</p> <p>④なわとび用ジャンピングボードの活用。</p> <p>⑤全学年でスポーツテスト実施</p> <p>⑥6年生で100m泳ぎきることをめざした系統的な水泳指導</p>	<p>①小中連携担当者の教育内容部会の継続開催。</p> <p>②連携コーディネーターによる小学校訪問・参観・授業の実施。</p> <p>③学校事務の共同実施。</p> <p>④連携カリキュラムの検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中連携担当者会から、より専門的な支援教育部会の設置。 ・小から中へ継続した道徳授業の実施。 ・小学校での教育を引き継いだ東雲スタンダードの作成。 ・茨木っ子運動Ⅰ・Ⅱを体育の授業で共有実施。 <p>・部活動での連携</p> <p>⑤中学校ブロック合同授業研を各小中1回開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学校で実施する校内授業研・参観等にお互いに参加し、交流する。
---	---	--	---